

# 十味敗毒湯・土骨皮

藥局文献検索資料

1998. 11. 2

蕁麻疹の漢方治療

堀口 裕治

生薬: [ ]

成分: [ ]

処方: 十味敗毒湯、茵陳五苓散

雑誌名: 現代東洋医学 13巻 1992年 3号 15頁 通算 [ ] 頁

報告: 治験例 標的器官: 感染・免疫系

剤形: エキス剤 投与経路: ヒト経口 投与量: 7.50g/day

併用薬: [ ]

内容: 十味敗毒湯(J)と茵陳五苓散(I)の使用経験(口渴を訴えた者にIを投与)
①対象: 慢性蕁麻疹11例(J投与)蕁麻疹26例(I投与)②結果 1)J投与群: 有効以上54% 2)I投与群: 有効以上65% 3)2剤とも有用との結果を得た
③副作用: 両群とも1例ずつ認められた(J: 夜間頻尿、I: 胃重感)

座瘡の漢方治療

檜垣 修一

生薬: [ ]

成分: [ ]

処方: 十味敗毒湯、清上防風湯、荊芥連翹湯、他

雑誌名: 現代東洋医学 13巻 1992年 4号 11頁 通算 [ ] 頁

報告: 治験例 標的器官: 感染・免疫系

剤形: [ ] 投与経路: [ ] 投与量: [ ]

併用薬: [ ]

内容: ①西洋医学的治療法②漢方薬治療の現況 1)漢方薬の使用頻度 2)漢方薬の随証投与 3)漢方薬の病名投与 4)漢方薬投与の問題点: 通常約2ヶ月程度したら継続可否の判断が必要 5)漢方薬の基礎研究(1)P.acnesに対する漢方薬の抗菌作用(2)漢方薬のP.acnesに対する抗リパーゼ作用

尋常性座瘡の漢方内服漢方外用剤併用療法

大熊 守也

生薬: [ ]

成分: [ ]

処方: 黄連解毒湯、十味敗毒湯

雑誌名: 和漢医薬学会誌 10巻 1993年 2号 [ ] 頁 通算 131頁

報告: 治験例 標的器官: 筋・感覚器系

剤形: エキス剤 投与経路: ヒト経口 投与量: 7.50g/day

併用薬: [ ]

内容: ①対象: 尋常性座瘡268例 期間: 4週間以上②結果: 黄連解毒湯、十味敗毒湯、クワダマイシンローション、ステロイドローション、硫黄カノフルーシンの外用療法は尋常性座瘡に対して面皰、小丘疹、膿疱の減少、消失に良い効果を示す事が認められた。

消炎排膿薬-漢方処方における薬効群(17)

原田 正敏

生薬: [ ]

成分: [ ]

処方: 桔梗湯、排膿湯、十味敗毒湯、他

雑誌名: 現代東洋医学 13巻 1992年 4号 105頁 通算 [ ] 頁

報告: 治験例 標的器官: 内分泌・代謝系

剤形: [ ] 投与経路: [ ] 投与量: [ ]

併用薬: [ ]

内容: ①本薬効群を構成する現代医薬品②所属する処方と効能、効果③本薬効群の特徴 1)配合生薬: 桔梗、荊芥、川、防風、連翹などが常用される 2)処方と効能、効果: 処方当たりの配合生薬が多く、その殆どが古方である ③処方解説: 1)桔梗湯 2)排膿湯 3)十味敗毒湯 4)荊芥防風敗毒散、他

「返品」：副作用情報171

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯

雑誌名：東医研データ 巻 1992年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：花粉症[s46.1021、女]：上記処方後、悪化。当帰芍薬散に変更となった  
(矢船)

「返品」：副作用情報215

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯合五苓散 別・大黃0.4

雑誌名：東医研データ 巻 1993年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s37.10.7、女]：上記処方後、顔の痒み・発疹が悪化する。その後、黄連解毒湯合桂枝茯苓丸 別・大黃0.5gに変更となった  
(岡本)

「返品」：副作用情報236

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯

雑誌名：東医研データ 巻 1993年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s20.11.18、女]：上記処方後、掻痒感が悪化し、むくみ、熱感も認められる。その後、温清飲加荊芥3連翹3石膏10に変更となった。(石野)

漢方薬と薬疹  
鱗 葉子

生薬：  
成分：  
処方：小青竜湯、葛根湯、当帰建中湯、黄連解毒湯、十味敗毒湯、加味逍遙散

雑誌名： 43巻 1991年 8号 49頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：筋・感覚器系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：①症例報告：1 葛根湯による出血性滲出性紅斑型薬疹(26歳、男)-麻黄が原因と推察 2 小青竜湯による多型紅斑型薬疹(30歳、男)-生薬の複合作用と推察②薬疹報告例：当帰建中湯(紅皮症型)黄連解毒湯、十味敗毒湯(多型紅斑型)加味逍遙散(PLEVA様) 参照：通信医学

「返品」：副作用情報20

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯加茵 蒿3、山梔子3

雑誌名：東医研データ 卷 1989年 \*\*\*号 \*\*\*頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：蕁麻疹[s21.12.26、女]：上記処方後、症状悪化。桂枝湯加黄耆4にするも不変。その後RAも指摘され、桂枝二越婢一湯加蒼朮4附子2としたところやや安定した。(田中)

「返品」：副作用情報35

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯

雑誌名：東医研データ 卷 1989年 \*\*\*号 \*\*\*頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s42.1.6、男]：上記処方後、悪化。白虎加人参湯加黄耆3に変更後、安定した。(大塚)

「返品」：副作用情報87

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯

雑誌名：東医研データ 卷 1990年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：感染・免疫系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：アトピー性皮膚炎[s47.8.14、男]：上記処方後、吐き気及び湿疹悪化。次に、黄連解毒湯合抑肝散になるが軽快せず、温清飲加連翹3に変更となった。(村主)

「返品」：副作用情報168

生薬：  
成分：  
処方：十味敗毒湯加連翹3

雑誌名：東医研データ 卷 1992年 号 頁 通算 頁

報告：副作用 標的器官：筋・感覚器系  
剤形：煎剤 投与経路：ヒト経口 投与量：

併用薬：

内容：蕁麻疹[s32.7.14、女]：上記処方後、症状は軽快したが胃もたれを認める。その後、小柴胡湯合五苓散に変更となった。(矢数)

実験的免疫に対する和漢薬の抗免疫作用

高橋 省三

生薬:

成分:

処方: 十味敗毒湯、清上防風湯、三物黄芩湯

雑誌名: 和漢医薬学会誌 2巻 1985年 3号 686頁 通算 頁

報告: 実験 標的器官: 感染・免疫系

剤形: エキス剤 投与経路: 動物経口 投与量: 2.00g

併用薬: オレイン酸

内容: ①走査電子顕微鏡と、画像解析装置による毛嚢孔面積の測定は、有用な測定方法である。②和漢薬の抗免疫作用が確認された。

和漢薬の抗免疫作用に関する組織化学的検討

斎藤 明宏

生薬:

成分:

処方: 十味敗毒湯、清上防風湯、三物黄芩湯

雑誌名: 和漢医薬学会誌 3巻 1986年 3号 268頁 通算 頁

報告: 実験 標的器官: 感染・免疫系

剤形: エキス剤 投与経路: 動物経口 投与量: 2.00g/day

併用薬:

内容: ①脂腺ではSH基は脂腺周辺細胞、分化細胞の細胞質、核に認められ脂肪滴にはみられなかった。②SS結合部は、脂腺周辺細胞、分化細胞には見られず脂腺終末細胞に認められSH基は上皮細胞の細胞質と剥離していない角質細胞に認められた。

実験的免疫にたいする和漢薬の抗免疫作用

高橋 省三

生薬:

成分:

処方: 十味敗毒湯、清上防風湯、三物黄芩湯

雑誌名: 和漢医薬学会誌 2巻 1985年 3号 686頁 通算 頁

報告: 実験 標的器官: 感染・免疫系

剤形: エキス剤 投与経路: 動物経口 投与量: 2.00g/day

併用薬:

内容: ①走査電子顕微鏡と、画像解析装置による毛嚢孔面積の測定は抗免疫作用測定の有用な方法である。②三物黄芩湯の抗免疫作用が基礎的実験により確認された。

掌蹠性膿疱症に対する漢方薬の治療効果

桧垣 修一

生薬:

成分:

処方: 柴朴湯、小柴胡湯、十味敗毒湯、温清飲、柴苓湯、桂枝茯苓丸

雑誌名: 現代東洋医学 12巻 1991年 1号 264頁 通算 頁

報告: 治験例 標的器官: その他

剤形: エキス剤 投与経路: ヒト経口 投与量: 7.50g/day

併用薬: ステロイド外用剤、非ステロイド外用剤、パスパート注射療法

内容: 症例報告①柴朴湯-柴胡に含まれるサイコサポニンによってステロイドと同様の作用が得られた②十味敗毒湯の含有される荊芥、防風、桔梗が慢性扁桃腺炎を伴った症例に有効であった  
参照: 難病、難症の漢方治療第4集(臨時増刊号)

和漢薬の抗面皰作用に関する組織化学的検討

齋藤 昭宏

生薬:

成分:

処方: 十味敗毒湯、清上防風湯、三物黄芩湯

雑誌名: 和漢医薬学会誌 3巻 1986年 3号 268頁 通算 頁

報告: 実験 標的器官: 筋・感覚器系

剤形: エキス剤 投与経路: 動物経口 投与量: 2.00g

併用薬: オレイン酸、DACM

内容: ①毛嚢漏斗部における角化層のSH基の挙動を減少②三物黄 湯での減少傾向が顕著